

## 夏も冬も省エネ!!! 節電・快適なシーリングファンはいかがですか?

暖房は冷房と同じ様に最大のエネルギー・電力消費を要し(全消費エネルギー中、住宅で約25%・オフィスで約45%)、夏に比べて冬の電力需要の方が大きく、さらに夏季冷房時の午後2時頃の1回のピークに比べ朝夕の2回のピークを頭に暖房需要が長い為さらなる節電対策が不可欠となります。

それに加え全国の殆どの原発が休止している現状下では、関西電力や九州電力でも予想される電力不足に対して節電要請が発令されるなど日本全体で厳しい状況です。

冷たい空気を暖めると暖気は上昇し著しい上下の温度差が生じる結果(天井高 2.4mで約 9℃)、足元が快適温度になるまで暖房をする事となり大きなエネルギーが必要となります。

シーリングファンは部屋全体の空気を循環して部屋の隅々に至るまで上下の温度差を解消し、暖房設定温度を【4~5度】も低くする事を可能にして約40%の節電をもたらすことが可能です。



## キヲツケテ!!!

妻が夫のために朝食の目玉焼きを作っていたら突然、夫がキッチンに飛び込んで来て、叫び始めた。

「気をつけて・・・キヲツケテ! もっとバターが必要だよ! ああ、だめだ! 君は一度にたくさん作り過ぎだよ。作り過ぎだよ! ひっくり返して! 今ひっくり返して! もう少しバターを入れて! あーあー! バターがもうないじゃないか! くっついちゃうよ! 気をつけて・・・キヲツケテ! 気をつけてって言うているのが分からないのか! 君は料理をしている時は、絶対僕の言うことを聞いてないね! いつもだよ! ひっくり返して! はやく! どうかしているのか? おかしくなったんじゃないのか? 塩を振るのを忘れないで。君はいつも目玉焼きに塩をするのを忘れるから。塩を使って。塩を使って! 塩だよ!」

妻は彼をにらみつけた。

「一体何があったのよ? 私が目玉焼きの一つや二つも焼けないと思っているわけ?」

夫は穏やかに答えた。

「僕が運転している時どんな気持ちか君に教えたかった。」

## 悪魔にお願いするブロード

不治の病になったブロードが悪魔を呼び出した。「俺を呼び出したのはお前か、願い事は何だ?」出てきた悪魔は言った。

「もっと長生きがしたい」ブロードは言った。

「簡単な事だ」そう言って悪魔は火のついたローソクを取り出した。それはかなり短くてもうすぐ燃え尽きそうだった。

「こ、これ私の寿命」「そう、あと半年くらいかな」そう言って悪魔は真新しいローソクを取り出し、それに火を移した。

「さあこれでお前の寿命は延びた、今日が新しい人生の誕生日のようなものだ。」そう言って悪魔は唄いだした。

「♪ハッピーバースデートゥーユー、ハッピーバースデー、ディア、ブロードお、ハッピーバースデートゥーユー」

唄い終わったのでブロードは、つい目の前のローソクをフーッと吹き消してしまった...

## 「七五三」なんで7歳 5歳 3歳?

数え年で、男の子は5歳と3歳、女の子は7歳と3歳になったら、11月15日に近くの神社にお参りして、健やかに育った事をお祝いします。

また、子ども自身にもその自覚を促す儀式でもあり、長い歴史を有します。

今の日本は世界屈指の長寿国であり、しかも新生児と乳幼児の死亡率の低さも世界でトップクラスですが、当時はそうは参りません。

幼くて命を落とす子も珍しくなく、現在の戸籍である人別帳に記載されるのは生まれて3年から4年経過してからというのが一般的であったようです。

医学も科学も栄養学も発達していない当時は、子どもが身も心も元気に育つように神に祈るばかりです。その思い、すなわち子を思う親の気持ちを形にした神聖な儀式が七五三であり、最初は公家や武家社会を中心に行われていたようです。

では、このような儀式が、今のように7歳と5歳と3歳に行われるようになった理由は何でしょうか?

まず、男の子も女の子も3歳になると髪を伸ばし始める「髪置きの儀」がありました。

これまで剃っていた髪の毛を伸ばし始める儀式のことです。

次に、男の子は5歳になると袴(はかま)を着る「袴着の儀」がありました。

今で言う男の子のフォーマルウェアですね。

加えて、女の子は7歳になると帯を締める「帯締の儀」「帯び始め」の儀式がありました。

つまり当時の女の子は7歳になると、大人と同じように帯をしめたわけですね。

そして江戸後期になると、これらの儀式を統一して行うようになり、公家や武家の限られた子どものみならず、幅広く一般庶民へと普及していきます。

今でもその名残が残っていますが、幼い子供が羽織袴姿で、親に手をひかれて歩く姿は微笑ましい限りですね

お参りするのには11月15日がお勧めですが、都合により、その日までにお参りされたらいいでしょう。

神社でお祓いを受けたら、お礼は「初穂料」がお勧めです。

かつては乳幼児の死亡率が高く、生きるも死ぬるも神様次第だったわけですね。

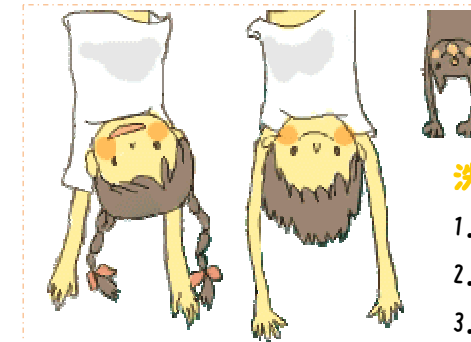
だから数えて7歳までの幼児は「神の子」と呼ばれ、亡くなっても葬式を出さなかったといわれています。

言い方を変えれば、子どもが生まれて7年は注意が必要だが、7歳を超えれば子どもは育つと考えられていたのでしょうか。

だから七五三のお祝いは本当にうれしかったことなのでしょうね。

今では、武士でも公家でもない普通の人が、晴れ着姿で盛大に七五三を祝うことが出来ます。

本当に豊かで平和な国と時代に生まれてよかったですね。



## 暮らしを楽しく

### 洗濯槽のカビ取りには「酢」がおすすめ

- 1.洗濯機にお水を張ります(満水に)
- 2.お酢をカップ1杯(約200cc)を入れ、一晩置きます。
- 3.汚れが浮き出てきます。
- 4.洗濯機を4~5分回すと、大きな汚れも出てきます。

### 洗面台の汚れ落としには「重曹」と「酢」が有効

- 1.濡らせたスポンジに粉の重曹をつけ、こする。
- 2.洗い流すか水ぶきをすればOK。

■少し頑張りとお掃除をしたい時には、ティッシュでお酢パックするのが有効です。

### フローリングのお米のとぎ汁でお掃除

- 1.お米のとぎ汁でフローリングの床を拭くと汚れはきれいに落ち、ピカピカになります。
- とぎ汁の中の「米ぬか」の成分にはワックス効果あるからなんだそうです。
- 2度拭きしなくてもよいのがいいですね。